

令和3年度 玉名女子高等学校 学校関係者評価報告

学校関係者評価委員会

実施日 令和4年3月22日（火）

出席者 法人評議員と保護者代表PTA役員

- 令和3年度参観行事：新型コロナウイルス感染症対策のため、今年度の参観はなし。
- 自己評価の分析について 資料の配布と説明（教頭）
- 感想・意見や提案（評価者）

1 「学校評価アンケートについて」

「学校評価について」

分析の緻密さに努力が感じられる。重点努力目標達成に向けての職員、生徒の努力が感じられる評価結果であった。教育伝達手段や学習指導評価の変化に伴う研修や、各学科、学年、校務分掌ごとの目標設定や実施計画が必要と思われる。学校評価はそのためのものであり、自分たちが変革や提案をし、それが生かされるとよいと思う。

「特進」についての分析、展望が少なかった。

重点目標（1）基礎学力の充実のための取り組み 専門性習得のための指導力強化

朝読書等の目的が教員間で必ずしも共有されていない。学校運営に関する基本方針について、管理職と教員とでよく話し合い、納得性を高めたうえで取り組むことが必要である。朝読書を中心に一定時間集中して読書することの継続を希望する。

各学科の教育課程、めざさなければならない学力を教職員が十分理解しておく。内容のまとまりごとの観点別目標と、評価方法は国立教育政策研究所から示されている。教職員は自分が担う教科について、常に研修を重ねて熟知し、その根拠に沿った授業を工夫していく必要がある。目標に準拠した指導と評価の研修を充実させて頂きたい。

教師がまず指導方法を工夫改善してわかる授業を展開し、生徒が楽しく学び成就感を味わうことが学力向上につながる。授業改善のための研修体制づくり、校内研修や研究授業、個々の教員の指導方法の研究・評価、「探究」の在り方の研究など、教員の指導力向上を図る取り組みの充実が必要。教員の質を高めることが、学校の魅力を高めることにもつながる。

私学であれ、公教育としては学習指導要領の基盤を踏まえた熱意ある指導でなければならない。教職員の一人ひとりの不断の向上心と熱意、教職員チームのまとまり、学校全体の団結を期待する。

専門教育の充実が評価されている。食物科のさらなる充実を図るために、一般企業などとの連携を図り、地域企業と繋がる教育機関になることを願っている。産学協同の充実がなされることで指導力等のさらなる充実のひとつになればと思う。

専門的な学習内容を学べる科が開かれ、関連する資格や検定の取得が可能なことも本校の大きな特徴のひとつである。生徒たちの意欲喚起、卒業後の進路に関わることであり、指導の一層の充実を図

ってもらいたい。また、その結果と進路の関連を中学生やその保護者に広く知ってもらうことも学校の魅力を発信することに繋がるものと思う。

重点目標（２） 基本的な生活習慣の確立を図るための取り組み

コロナ禍に学校内感染がないことはとても素晴らしい。引き続き感染対策を徹底していただきたい。授業は静かに進められている。整容についてはよく整っており、挨拶も明るい声のできる生徒が多く、学校を訪れる人の心を和ませ、好印象を与えている。人と接する場面では基本的に大切な要素である。思春期の高校生の生活指導、生徒指導は大変だと思うが、学校全体が比較的落ち着いている。心が伴った基本的な生活習慣を指導してほしい。

重点目標（３） 文武両道（教師によるマネジメント）

コロナ禍で生徒の姿を見る機会がないが、テレビ、新聞等で部活動の活躍に感動した。授業が終わった後、部活動生が小走りで寮へ帰って着替えてすぐに部活動の準備をしている。無駄な時間を過ごす者はいない。生活の中で何をすべきか、とても訓練されていて感心する。高校生選手の高い技術と模範的な態度、張りのある声で地域の小中学生等を指導していた。日頃の練習を大切にしているからこそできるのだと誇らしく思った。

部活動など縮小しながらも、各部や学校全体で工夫しながら可能な範囲でできたことは大変良かった。中心は子どもたちであり、勉学とともにこれからも知恵を出し合い進めてもらいたい。

各行事や全教育活動での成功体験が、先生方の指導でもたらされる場面が多いと感じている。キャリア上の目標が、玉名女子高校在学中の早い時期に設定でき、それに向かっての学習が志を持って続けられるような工夫が学校としてできればよいと思う。

重点目標（４） 人権・同和教育の推進

授業をはじめ、生徒指導、学級経営、学校行事、部活動など教育活動全般にわたり、人権尊重の精神を土台に据えて取り組まれている。この成果はいじめに関する調査で、生徒の肯定的回答の割合が少しずつ高まり安定していることに現れていると言える。また、体罰やハラスメントも学校が直面する人権侵害である。生徒の回答に少し気がかりな点はあるが、先生方の取り組みで改善されていくものと期待する。愛情をもって接していても、表現が難しく、自らが気づかないことも多いので、自省や他者からの助言を受け入れるようにしたい。いじめや体罰、ハラスメントのない学校づくりをさらに進めることは、生徒や保護者、地域住民の学校に対する信頼感や評価を高めることに繋がる。

国際理解教育について評価が低いのが気になる。コロナ禍で制限を受けたことの影響が大きいだろうが、リモートの活用など工夫したい。今世界ではウクライナ情勢が連日テレビ、新聞で報道されている。少し難しいかもしれないが、理解できる年齢と思うので、世界にも目を向けてもらいたい。

重点目標（５） 働き方改革の推進

ICT環境のさらなる拡充が計画されているが、これらを働き方の改革に取り入れ、校務分掌のスリ

ム化を図り、無駄を省き、業務の見直しをしていく必要がある。長期休暇の活用が大切だと思う。

2 「入試分析」について。

令和3年度入学者数は、県全体の中卒者数が令和2年度に比べ大幅に減少した中、小幅な減少にとどまっていたが、今年度は中卒者数が大幅に増加したにもかかわらず昨年度を上回る減少幅となっている。入学者は4年連続で減少し、その結果、全校生徒数も昨年度から減少に転じている。2023年3月の県全体の中卒者数は今年度に比べ500人程度増える見込みであり、現在の分析に加え、国公立を含めた熊本市内校、県北地域他校、さらに大牟田市内の各種データを踏まえて、マクロ的観点で玉名女子校の「強み・弱み」について分析し、来年度募集にいかす必要がある。

荒尾玉名地区の減少は残念。地元にもっとアピールしていく努力を。「地域に立つ学校としての在り方」を、原点の一步目から再考することも大事。

スクールバスの菊陽方面への拡充に期待ができる。スクールバス、JR沿線など、通学への交通機関の確保は入試を左右する大きな問題。

3 魅力ある学校づくりと生徒募集

生徒の声は貴重なものだが、それに一喜一憂せず、中・長期的な構えで対策を進めてほしい。令和6年度には100周年を迎える。どんな計画を立てるか、いろんな声を聞く仕掛けが必要ではないか。100年の歴史を誇りとし自信をもって魅力をアピールする。

産業教育に長い伝統があることをアピールし、荒玉地区を中心に地元の企業などと連携する事業を推進する。

生徒が入学し、3年間学ぶことができ良かったと心から思える学校づくりを進めることが大切。授業がわかり楽しいという授業づくり、友達や先生との信頼関係を築く学級づくり、学校生活に変化と潤いを与える学校行事の工夫、部活動を含め個性を伸ばす指導の充実、卒業時に希望する進路を実現するためのキャリア教育の充実などが求められる。

県立高校が魅力アップに取り組み受験者数が伸びている中、さらなる魅力アップに取り組まないと後れをとる可能性がある。地域から求められることが学校の発展に必要であり、他校との比較の中で抽出された玉名女子高の「魅力、強み」を踏まえ、教職員、生徒・保護者、そして地域を巻き込んで、どのような学校を作っていくか、話し合っていくことが必要。

特進コースを設置して進学実績が上がり、入学希望者が増加するまでには時間がかかる。第一期生について国公立合格者が出ており、この実績を独自のカリキュラムとともにアピールする必要がある。

所感

コロナ禍の中で生徒の活動する姿や頑張りが保護者や地域の人々には見えにくくなっている。学校から教育情報を今まで以上に密に発信して理解してもらうことも必要である。これまで以上に新聞、テレビなどのメディアの活用を進め、対応する広報の機能を強化することも考えられる。